

前号に続きましてまたも娘の言話です。ここ最近で、皆の前で発言したり歌欠えるようになってきた…という成長を見せてくれた娘。幼稚園での聖誕劇の役決めは全員ひと通り役をやってみてから決める、という数週間にも及ぶものでした。羊飼、博士、宿屋、兵隊、星、マリア、ヨセフ、ナレーター…etc 誰がやってもできる、というのは素敵なアイデアだなあと感心しつつ、先生も子どもらの様子、どう決めていくかを丁寧に見ているのがわかりました。はてさて、娘は何をやりたいんだろう、何になるんだろう、と親の方もソワソワ。決める日の前日「何をやりたいの?」と聞くとなんと「マリア!」! 1ヶ月前には想像もできない答えでした。一人で歌欠うシーンも多い役を、まさか自分からやりたいと言うなんて…! もうそれだけで胸が一瞬になってしまい、「そうか、やりたいならできるといいね」と嬉しさと不安が入り混じる気持ちで翌日を迎え、お迎えの時私の元に来た娘に、何の役になったのか聞くと「兵隊!」と予想外の答え。え、それ希望してなかったよね…ザワザワしたものが胸に広がるのがわかりました。公園へ向かう道すがら話を聞くと、もう1人マリアをやりたい子が現れて、2人で話し合、最終的に娘が譲ったとわかりました。その子は気が強い子で、時々公園で見たりする様子から、娘がスッと身を引く様子がありありと想像できました。我慢したのでは…という切ないようなモヤモヤが消えず「マリアをやりたいんじゃないの?」とつい聞いてしまいました。すると娘は「兵隊やるんだよね!」と元気にスキップして行きました。引きずっているのは私の方でした。翌日、先生が2人の話し合いの様子を詳しく教えてくれました。途中、娘が「兵隊やる」と言った時、先生も「えっ」と思い、再確認すると「黒いベルトがかっこいいから」と。その時の彼女の心の中の葛藤や優しさ、切り替え、を思うと且頭が熱くなりました。「Iちゃん、本当にきれいな声で歌欠うんですよ」とほめて下さり、「お友達に役を譲ってくれた代わりにもう1つ大きな役を任せたいと思ってるんです」という言葉にまた泣いてしまったのでした。娘の成長と優しさに教ええられることが沢山あるなあと感謝したのでした。コバ子

まきばでひとやすみ

